

第一種使用規程の承認に係る申請案件の審査状況

1 ご審議いただく案件

名 称【申請者】	使用等の内容	検討状況		承認の状況			
		農作物 分科会	総合 検討会	カルタヘナ法		食品衛生法 又は飼料安全法	
				隔離ほ場	一般利用	食品	飼料
1 除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ (改変 <i>cp4 epsps, pat, Glycine max</i> (L.) Merr.) (DBN9004, OECD UI: DBN-09004-6) 【SCC Scientific Consulting Company Japan株式会社】	食用又は飼料用に供 するための使用、栽 培、加工、保管、運 搬及び廃棄並びにこ れらに付随する行為	2024年 11月29日	-	2023年7月	-	-	-
2 チョウ目害虫抵抗性ダイズ (<i>cry1B.61.1, cry1Ca.03, vip3Ab1.740, Glycine max</i> (L.) Merr.) (COR1921, OECD UI: COR-01921-4) 【コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社】	隔離ほ場における栽 培、保管、運搬及び 廃棄並びにこれらに 付随する行為	2024年 11月29日	-	-	-	-	-
3 高オレイン酸含有並びに除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤、アリルオキシアルカノ エート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ (<i>gm-fad2-1, gm-hra</i> , 改変 <i>aad-12, 2mepsps, pat, Glycine max</i> (L.) Merr.) (DP-305423-1×DAS44406, OECD UI: DP-305423-1×DAS-44406-6) 【コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社】	食用又は飼料用に供 するための使用、栽 培、加工、保管、運 搬及び廃棄並びにこ れらに付随する行為	2025年 1月31日	-	不要	-	-	-
4 除草剤グリホサート、グルホシネート及びジカンバ耐性テンサイ (改変 <i>cp4 epsps, pat</i> , 改変 <i>dmo, Beta vulgaris</i> L. ssp. <i>vulgaris</i> var. <i>altissima</i>) (KWS20-1, OECD UI: KB-KWS201-6) 【バイエルクロップサイエンス株式会社】	食用又は飼料用に供 するための使用、栽 培、加工、保管、運 搬及び廃棄並びにこ れらに付随する行為	2024年 11月29日	-	2023年5月	-	-	-

注1：「承認状況」の「カルタヘナ法」欄は、第一種使用規程が承認された年を記載しており、「-」は未承認であることを示す。
また、農作物の「隔離ほ場」欄における「不要」は、国内での隔離ほ場試験による情報収集が不要と判断されたもの、スタック系統については
親系統と比較し形質間の相互作用が示されていないことを確認しているものであることを示す。

注2：「承認状況」の「食品衛生法又は飼料安全法」欄は、安全性が確認された年又は所定の手続を行った年を記載しており、
「-」は未承認であること、「○」は安全性が確認されたもの同士の掛け合わせであることを示す。
ただし、「-」には、花きや昆虫など、食用や飼料用に供さない場合も含まれる。

【参考】親系統の審査状況

高オレイン酸含有並びに除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤、アリロキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ (*gm-fad2-1*, *gm-hra*, 改変 *aad-12*, *2mepsps*, *pat*, *Glycine max* (L.) Merr.)

(DP-305423-1×DAS44406, OECD UI: DP-305423-1×DAS-44406-6)

名 称【申請者】			使用等の内容	承認の状況			
				カルタヘナ法		食品衛生法 又は飼料安全法	
				隔離ほ場	一般利用	食品	飼料
1	参考資料2 ダイズの番号 7, 17	高オレイン酸含有及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害 剤耐性ダイズ (<i>gm-fad2-1</i> , <i>gm-hra</i> , <i>Glycine max</i> (L.) Merr) (DP-305423-1, OECD UI: DP-305423-1) 【コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社】	食用又は飼料用に供するた めの使用、栽培、加工、保 管、運搬及び廃棄並びにこ れらに付随する行為	2007	2010	2010	2010
2	参考資料2 ダイズの番号 21, 40	除草剤アリロキシアルカノエート系、グリホサート 及びグルホシネート耐性ダイズ (改変 <i>aad-12</i> , <i>2mepsps</i> , <i>pat</i> , <i>Glycine max</i> (L.) Merr.) (DAS44406, OECD UI: DAS-44406-6) 【コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社】	食用又は飼料用に供するた めの使用、栽培、加工、保 管、運搬及び廃棄並びにこ れらに付随する行為	2011	2015	2014	2015

注1：「承認の状況」の「カルタヘナ法」欄は、第一種使用規程が承認された年を記載しており、「－」は未承認であることを示す。
また、「隔離ほ場」欄における「○」は、「農林水産分野等における組換え体の利用のための指針」に基づき、確認されたものであることを示す。

注2：「承認の状況」の「食品衛生法又は飼料安全法」欄は、安全性が確認された年又は所定の手続を行った年を記載しており、「－」は未確認であることを示す。ただし、「－」には、花きなど、食用や飼料用に供さない場合も含まれる。

審査番号 1	品目の概要			
遺伝子組換え 生物の名称	除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ (改変 <i>cp4 epsps</i> , <i>pat</i> , <i>Glycine max</i> (L.) Merr.) (DBN9004, OECD UI: DBN-09004-6)			
申請者	SCC Scientific Consulting Company Japan株式会社			
使用等の内容	食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為			
	野生動植物等の特定	影響の具体的内容	影響の生じやすさ	生物多様性影響の有無 の判断
競合における優位性	特定されず	—	—	無しと判断
有害物質の産生性	特定されず	—	—	無しと判断
交雑性	ツルマメ	ツルマメ集団中に改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子及び <i>pat</i> 遺伝子が浸透しその 集団の競合における優位 性が高まる可能性が考え られた	導入遺伝子がツルマメの 集団中に浸透していくこと は考え難い	無しと判断
その他特記事項	○ 特になし			

審査番号 2	品目の概要			
遺伝子組換え 生物の名称	チョウ目害虫抵抗性ダイズ (<i>cry1B.61.1</i> , <i>cry1Ca.03</i> , <i>vip3Ab1.740</i> , <i>Glycine max</i> (L.) Merr.) (COR1921, OECD UI: COR-Ø1921-4)			
申請者	コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社			
使用等の内容	隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為			
	野生動植物等の特定	影響の具体的内容	影響の生じやすさ	生物多様性影響の有無 の判断
競合における優位性	特定されず	—	—	無しと判断
有害物質の産生性	特定されず	—	—	無しと判断
交雑性	ツルマメ	ツルマメ集団中に <i>cry1B.61.1</i> 遺伝子、 <i>cry1Ca.03</i> 遺伝子及び <i>vip3Ab1.740</i> 遺伝子が 浸透しその集団の競合に おける優位性が高まる可 能性が考えられた	導入遺伝子がツルマメの 集団中に浸透していくこと は考え難い	無しと判断
その他特記事項	○ 特になし			

審査番号 3	品目の概要			
遺伝子組換え 生物の名称	高オレイン酸含有並びに除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤、アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ (<i>gm-fad2-1</i> , <i>gm-hra</i> , 改変 <i>aad-12</i> , <i>2mepsps</i> , <i>pat</i> , <i>Glycine max</i> (L.) Merr.) (DP-305423-1×DAS44406, OECD UI: DP-305423-1×DAS-44406-6)			
申請者	コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社			
使用等の内容	食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為			
	野生動植物等の特定	影響の具体的内容	影響の生じやすさ	生物多様性影響の有無 の判断
競合における優位性	特定されず	—	—	無しと判断
有害物質の産生性	特定されず	—	—	無しと判断
交雑性	特定されず	—	—	無しと判断
その他特記事項	○ 特になし			

審査番号 4	品目の概要			
遺伝子組換え 生物の名称	除草剤グリホサート、グルホシネート及びジカンバ耐性テンサイ (改変 <i>cp4 epsps</i> , <i>pat</i> , 改変 <i>dmo</i> , <i>Beta vulgaris</i> L. ssp. <i>vulgaris</i> var. <i>altissima</i>) (KWS20-1, OECD UI: KB-KWS201-6)			
申請者	バイエルクロップサイエンス株式会社			
使用等の内容	食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為			
	野生動植物等の特定	影響の具体的内容	影響の生じやすさ	生物多様性影響の有無 の判断
競合における優位性	特定されず	—	—	無しと判断
有害物質の産生性	特定されず	—	—	無しと判断
交雑性	特定されず	—	—	無しと判断
その他特記事項	○ 特になし			